★★★
おシゴト探検
CASE.16

学んだ美術のセンスが活かせる街で自分の「作品」を見ることも

うぇあ（ようふく）でざいなー ウェア（洋服）デザイナー

文字通り洋服のデザインをするのが仕事。沖縄では夏場にかりゆしウェアを愛用する人が多く、そのデザインは売れ行きに大きく影響するのでとても重要です。

株式会社日進商会で働く稲嶺和音さんは、MAJUNというブランドのかりゆしウェアのデザインを担当しています。男女いずれ向けの商品も手がけますが、どちらかというと男性向けが多いそうです。「街を歩いていたりすると自分がデザインした商品を着ている人をよく見かけます。とても誇らしくてうれしいですね」。いわば自分の「作品」を街で見ることができるわけで、それはうれしいはずですね。彼女の作品はスーパーなどでも売られているそうです。かりゆしウェアは沖縄らしいモチーフを使わなくてはならないので制限はありますが、いろいろな柄を取り入れて新しい沖縄らしさを表現しようと日々挑戦しているといいます。その意味ではゴールや正解がない世界なので、想像力や創造力を駆使した日々の努力が必要です。でも明るい笑顔が輝いている人でした。

稲嶺（いなみね） 和音（かずね）さん（24歳）
豊見城市出身。伊良波中学校、開邦高校を経て沖縄県立芸大の工芸学部で学ぶ。大学の紹介で卒業後は現在の職場である（株）日進商会に入社し、3年目。主にかりゆしウェアのデザインを担当している。

おしゃれや美容に興味がある！

基本的にはパソコンに向かってする仕事がほとんど。ただ、電話対応をすることもあります。

図案を起こしたり配色したり社内で検討したりと、商品になるまでに半年くらいかかります。

生地になってから洗濯でどのくらい縮むのかを確認するための作業をしているところです。

職場に隣接する直売店でスタッフの方とお話しし、売れ行きの状況を確認したりします。

両方とも稲嶺さんがデザインしたかりゆしウェア。右の商品にはタコがデザインされています。

ウェアデザイナーの必需品

◀パソコン
この仕事には必需品。フォトショップやイラストレータなどのソフトを使います。

◀ペンタブレット
この上でペンを動かしてパソコンの画面上に線やイラストを描いていきます。

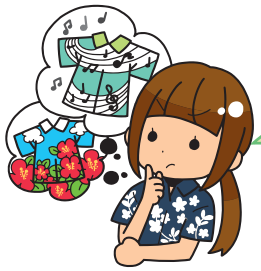
◀メモ帳
頭に浮かんだデザイン案を描き出していきます。商品化への出発点となる作業です。

◀付箋（ふせん）
メモ帳だけでなく、付箋にメモやデザイン案を書いていくこともよくあります。

▲マスキングテープ
デザインに使うのではなく、生地を入れる袋に封をする際などに使うそうです。

ウェアデザイナーってどんな仕事をするの？

社内でいろいろ検討して図案ができあがったら、それをメーカーさんに渡して生地にプリントしてもらいます。



まずモチーフを探してレイアウトなどを考え、図案を起こします。それを叩き台として社内で検討します。

戻ってきたものを修正してGOになったら配色を施します。色数の制限などがあり、それらも考慮しながら配色していき、色違いのバリエーションをいくつか作ります。

配色ができたら生地に試しプリントしてみます。生地になると画面で見たときや紙に印刷したときなどと色合が微妙に違うので、それらも見つつ色を直していきます。

デザインが決まったら営業担当者から必要枚数を聞いて社内の縫製担当者に渡し、縫製してもらいます。

図案起こしから完成まで約半年かかりますが、稲嶺さんはだいたい4柄くらいのデザインを同時進行でやっているそうです。

ちなみに稲嶺さんの場合は一年後に販売される商品のデザインをしているので、それが世に出るのを見るのは一年先になります。

おしゃれや美容に興味がある！

どうしたらなれる？ ウェアデザイナー

中学校卒業 → 高等学校卒業 → 美術系の専門学校、大学、職業訓練校などを卒業する → アパレルメーカーなどに就職する

給料はどれくらい？

給与額は会社により異なりますが、こちらでは諸手当等込みで月収175,000円くらいだそうです。求人募集や就職先はアパレルメーカーが一般的なようです。

10年後のきみたちへひと言

うちの会社でデザイナーとして働いている人は職業訓練校でフォトショップやイラストレーターを学んだ人がけっこういます。こうしたソフトの使い方を習得していれば即戦力になるでしょう。また私のように県立芸大出身者もいて、学生の時に身につけた想像力や発想力が活かせます。あとタイピングを修得しておくといいですよ。